



02

珈琲門



珈琲と相性のいいあいがけカレーやサンドイッチに舌鼓
「カレーとハヤシライスのあいがけという欲張りコンビ。店主のご実家が新潟の米農家で『たくさんご飯を食べてほしい』と言う思いから始めたそう。『謎粉』と呼ばれるオリジナルスパイスのかかったたまごサンドもおすすめ」

美しいガラスのトレイにセットされたロシアンティー。オリジナルのジャムでお好みの味に

「よりみち」スポットはMAPアイコンをチェック!

機内誌片手に「よりみち」しませんか?

今日の「よりみち」マップ

中部国際空港(名古屋)編

NAGOYA

喫茶店と
渋いビルを愛でる
もうひとつの名古屋案内



Navigator's Profile

名古屋
渋ビル研究会とは

2011年に結成した、寺嶋梨里と謡口志保による名古屋の渋いビルを愛でる会。2人で街歩きをして、琴線に触れるビルを見つけるとは褒めたり愛でたりしている。シリーズ最新版vol.10が刊行中の小冊子「渋ビル手帖」が人気。
<https://shibubuilding.themedia.jp>



開店から13:00までの間、ドリンクをオーダーするとプチケーキがついてくる。(なくなり次第終了)日替わりなのも嬉しい。



03

洋菓子・
喫茶ボンボン



応接間のようなインテリアでいただく種類豊富なケーキ
「建物の渋ビルとしての魅力はもちろん、美味しいケーキが良心的なお値段で頂けるのが嬉しい。看板、紙ナプキン、カップ、お皿などにある「ボンボン」のロゴはどれもデザインが違うけど、どれもかわいらしい!」



の1階へ移転してきた喫茶店。窓辺には1957年開店当時の店舗で使っていたテーブルと椅子が。
寺嶋「門」といえばたまごサンドも好き!薄焼き卵とチーズがミルフィーユ状になった具がパンに挟まれていて、できたてを食べるとチーズがとろけて最高!
謡口「門」から少し歩いた場所にある「中産連ビル」という素敵な建築があって、1階にコーヒースタ

ンドもあるのでぜひ立ち寄りたててほしい。私たちは2015年に「名古屋渋ビル手帖 中産連ビル特集号」を発行させてもらったくらい好きです(笑)。
寺嶋 手入れが行き届いていて、大切に使われている様子にいつも感動するね。
謡口 中産連ビルから「文化のみち」を通って喫茶店「ボンボン」へ向かうのがおすすめコース!
寺嶋 「ボンボン」は本当に外観も中もあらゆるところがかわいらしいので余すことなく見てほしいな。和洋折衷なインテリアに時代を感じる。
謡口 ボンボンで食べて欲しいのは「マロン」という生クリームをスポンジで包んだ四角形のケーキ。愛知ではあちこちのお店で「ファンシー」という名前で売られていて、発祥は蟹江の洋菓子店らしい。「マロン」は栗と生クリームが乗ってちょっとスペシャル感あるよね。
寺嶋 夜9時まで営業しているから、1日の締めくりにちょうどいい。看板に灯りが灯った外観もすごく雰囲気がいいので夜ボンボンもおすすめですよ。
謡口 今回ご紹介した風景もいつ変わってしまうかわからない。そんな視点をもちつつ街を歩くと、目的の地までの移動さえも楽しくなると思います!



01

コーヒーハウス
かこ 花車本店



自家製コンフィチュールこんもりのモーニングトーストが看板メニュー
「ヨーロッパ建築をイメージしたインテリアのしつらえが素晴らしい。トーストに添えられるマーメレードは50年以上続く「かこ」の定番。コーヒーは濃いめでしっかりした味わいだから、甘いコンフィチュールと相性良し!」

Navigator 名古屋渋ビル研究会

謡口 志保
Shiho Utaguchi

寺嶋 梨里
Risato Terashima



渋いビルに
いい喫茶店あり

謡口 名古屋の街中には、渋ビルのテナントとして入っている喫茶店がたくさんあって、今回ご紹介するお店を絞るのも苦労したね。
寺嶋 なかでもやっぱり外せないのが、名古屋駅から徒歩でも行ける「コーヒーハウスかこ」。オーナーの土屋さんが1972年に先代から引き継いで始めたお店。ポールの天井(アーチ状の天井)やぶどうのフレスコ画も見られて芸術性の高い空間だね。
謡口 モーニングのトーストはオリジナルのコンフィチュールがこんもり乗ってかわいい!
寺嶋 「かこ」から名古屋駅方面へ向かう道のりは渋ビルの宝庫だよな。
謡口 そうそう。だけど名古屋駅周辺、特に西側は再開発真つ最中で、景色が大きく変わりがつあるから、しっかり記録と記憶に残していかないとね。
寺嶋 うん。でも渋ビルをリノベーションした新しいお店もできているし。渋ビルを見つけたときの嬉しさもひとしおで、散歩しがいがあるはず!

“名古屋の喫茶店”の 深い話

モーニングにも
店の多さにも理由あり。
茶の湯の文化が育んだ“いっぷく”愛

名古屋は喫茶店文化が根づいた町。人口あたりの店舗数や従業員数、年間支出額など、様々な統計で国内トップクラスにランクインします。

このようなデータもさることながら、個性を際立たせているのが独自のサービスやメニューです。ドリンク代だけでトーストやゆで玉子が無料でついてくるモーニングサービスはつとに有名。一日を通してピーナッツなどのお茶うけもついできます。さらには小倉トースト、鉄板スパゲティといった名古屋発祥の喫茶グルメも定番になっています。

なぜ名古屋にはこんなに喫茶店が多く、過剰なサービスが当たり前になっているのでしょうか？

その理由としてよく挙げられるのが名古屋人の合理&倹約主義。企業は社内に応接室を設けず、近くの喫茶店で商談を済ませたがるためたくさんの軒数が必要とされた。モーニングやピーナッツは名古屋人ががめついためおまけをつけざるを得なかった…。

こうした気質も確かに多少は影響しているのでしょうか。しかし、名古屋の喫茶店文化の原点は、実は江戸時代から連綿と育まれてきた茶の湯の文化です。自然環境に恵まれた名古屋は農業の生産性が高く、江戸時代から庶民の暮らしにもゆとりがありました。加えて殿様が茶事に熱心だったため、“いっぷく”の習慣が町人にまで浸透していました。このライフスタイルが受け継がれてきたため、現代においても名古屋人はいっぷくの場として喫茶店を求め、愛してきたのです。そして、店側にも茶道に通じるおもてなしの心があるがゆえ、お客に少しでも満足してもらいたいという心理が働き、モーニングなどのおまけサービス、さらには独自のメニューも生まれたのだと考えられます。

一見風変わりのように見えて実は地域の伝統や人間性をも反映した名古屋の喫茶店。名古屋を訪れた際には是非、これまたこの町独特の苦みとコクの強いコーヒーをすすりながら、異文化体験をお楽しみください。

文/大竹敏之（『名古屋の喫茶店完全版』著者）

とカメラ

機内誌 片手に
「よりみち」しませんか？
ビルの場所はMAPアイコンでチェック！



04 **コマツビル**
司令塔のような塔屋と味のある「東3冷凍」の文字が最高に渋い！ 通りから名古屋駅側に2面ぐるりと回り込んだガラス、パネル、タイルの水平連続窓も素敵です。

05 **側島ノリタケビル**
1973年築のガンディなビル。真面目そうな入口のサインや窓と窓の間に施された溝など、細かなディテールがグッとくる。ちなみに向かいにある同テイストの側島第2ノリタケビルは1979年竣工。

06 **チサンイン名古屋**
どうもろこしを一列飛ばして食べたような外観がインパクト大！ 1973年竣工の、小さな部屋の集合体であるホテルというビルディングタイプと円形プランが絶妙に合致したデザイン。

08 **和風ホテルー富久**
水平連続窓とタイル、それを囲う黄色い縁飾りがアクセント。隣の「セレクト土産店オマージュ名古屋」との間の斜めになっている階段室もいい感じ。ひとくせある名古屋土産はここでぜひ。

09 **近鉄名古屋駅**
リズミカルな窓のサッシがあまりにいいので、渋ビル手帖第3号でミートパイに(笑)。八角形をモチーフにした天井デザインや丸い照明、床のタイル等々見所だらけ！

10 **柳橋中央市場水産ビル**
「市民の台所」として知られる名古屋の食品卸売市場。渋いビルが集積したエリアで、早朝からオープンしている飲食店もあり、まち歩きに楽しい。ビルだけでなく、看板や街灯のデザインも要チェック！

Access
● 中部国際空港→名鉄名古屋駅(電車)…37分
● 中部国際空港→名鉄名古屋駅(特急ミュースカイ)…28分
● 中部国際空港→名鉄名古屋駅(車)…45分

TAXI
移動は便利なタクシーで！【第一交通タクシー】
○ 中部国際空港セントレア tel.052-604-2323
○ 名古屋市内 tel.052-912-3456



喫茶店と渋ビル よりみち名古屋MAP

喫茶店とその周辺で楽しめる、渋ビル&よりみちスポットをご紹介します。ひと味違う名古屋観光を堪能できるはず！



07 **ホリエビル**
お菓子工場だったビルを“リノベ”して1階を書店「Nagoya BOOK CENTER」と喫茶店、2階はフリーペーパー専門書店として営業。渋ビル手帖をコンプリートで扱ってくれています。外壁のタイルや青いPタイルの床などは竣工当初のもの。



02 **榎木ビル ▶P11**
1978年竣工の1階に「珈琲 門」のお店が入るゲタバキ集合住宅。出窓を縦割りで繋ぐようなデザインや窓の間のタイルが洒落ています。

12 **中産連ビル本館**
1963年に完成した坂倉準三設計の名ビル。モダニズム全開な窓の配置や4階の反った屋根、美しい階段、円弧を描くテラン/床、そして緑色のタイルなどどこをとっても素晴らしい！

11 **市営山吹荘**
1969年竣工の市営住宅。スキップフロアなので1階置きに外廊下の手摺と角アールの縁で囲んだ窓が交互に並んでいるレトロモダンな北側に注目です。

03 **ボンボン ▶P11**
1967年から現在の建物に。歩道橋側から見た時に水玉模様のように見えるタイルの貼り方や窓の赤い六角形の縁飾り、多様な書体で作られた看板など、かわいさが凝縮。

01 **「かこ」が入るビル**
花車ビル南館 ▶P10
角が面取りされている低層階に対してセットバックした上層階のバランスがカッコいい！1967年竣工の渋ビル。タイル張りや水平連続窓は渋ビルの特徴のひとつ。



店主 今井大輔さん
三河地方にある老舗味噌メーカー「今井醸造」の3代目。古い喫茶店好きが高じて「喫茶ソウメシ」をオープンした。味噌を使った料理を楽しめる「ぞうめし屋」も経営する。

04 osusume spot!
喫茶ソウメシ

古い喫茶店を“リノベ”して3年前にオープンした、ネオレトロ喫茶店。ロゴの象型クッキーを乗せたクリームソーダが人気だが、みそ煮込みうどんや肉みそりの玉ごはんなどの食事メニューも。喫茶店には珍しく座敷席があるのも特徴。老若男女のニーズにもマッチした、名古屋の喫茶店文化のよさをこれからの時代へ受け継ぐ店。